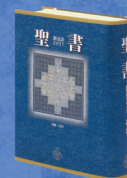


# 新改訳ニュース

vol. 3 2024.5



〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル206 一般社団法人 新日本聖書刊行会 発行者: 木内 伸嘉

## 「聖書と私」

翻訳編集委員会 新約担当主任 内田 和彦

中学二年生の頃でした。姉の本棚にあった聖書を手にして、「読んでみよう」と思ったのは。何の手引きもなく、人の導きもなく、創世記から読み始め、民数記でギブアップしました。やがて高校に入学し、その聖書を携えて hi-b.a. の集会に通うようになり、信仰に導かれました。高校三年生の夏、献身の思いが与えられ、新約聖書を原語で読みたくなり、大学で古典ギリシア語を学ぶことになりました。

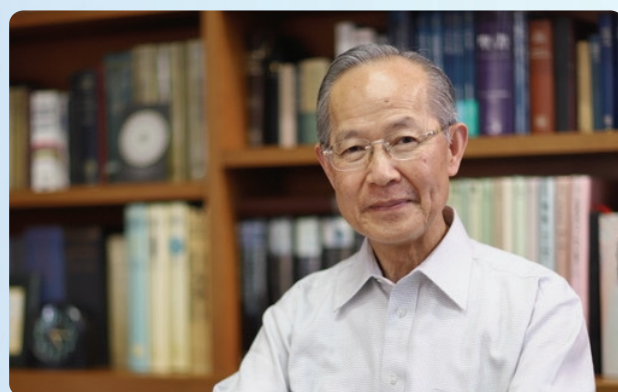
以来六十年ほどの歳月が経ちました。主のあわれみによって、牧師や教師として歩ませていただいていた私が今思うことは、極め尽くすことのできない聖書の深さです。若い時によく分からなかった聖書の言葉が分かるようになって嬉しく思うことがあります。しかしまた、分かったと思っていたことが、実は分かっていたと気がつくこともあります。いやむしろ、読めば読むほど、学べば学ぶほど、自分の知らない世界が広がっていく、というのが実感です。

それでも、聖書を説き明かす務めを許されていることは感謝です。無限の神が私たち人間の言葉でご自身を啓示してくださったことは、何という恵みでしょう。大学生の頃、今にして思えばずいぶん大胆なことでしたが、夕拝や家庭集会で奨励をする奉仕を牧師先生が託してくださいました。手に入る参考書に助けられて、その箇所が教えていると思われることを語りました。それは不思議と重荷ではなく、喜びでした。「盲蛇に怖じず」だっ

たのでしょ

たのでしょ。今も語れることは喜びですが、同時に、聖書のメッセージを伝えることの難しさを覚えます。単なる知識の伝達ではありません。聞く人の心に届かなければなりません。神がどれほど私たちを愛してくださっているか、どれほど深い配慮をしておられるか、神の語りかけに応え、へりくだって恵みを受け取る生活がどれほど幸いであるかを明らかにしなければなりません。しかも私たちは、聖書の登場人物と異なる文化に生きています。ですから、講壇に立つ前にはいつも自分の知恵の限界、霊性の貧しさを意識させられます。空っぽの自らを献げることしかできません。

考えてみれば当然です。神は無限のお方なので、永遠の御国において、極め尽くすことのできない神の豊かさを味わわせていただくことになる私たちです。地上で聖書の言葉に耳を傾けることによって、その神の無限の豊かさを垣間見させていただくのだと思います。



# 訳文検討作業部会のひとこま

新約聖書 訳文検討作業部会 O.Y.

私は新約聖書の訳文検討作業部会に参加させていただいています。この会は、聖書学者、日本語学者、牧師、宣教団体スタッフ、神学生など十数名の参加者が隔月で集い、将来に向けた『聖書 新改訳 2017』の改訂について、原典釈義に基づいて議論するためのものです。

まず、各回の集まりのために前もって一人の発表者が立てられます。発表者は会議当日に向けて入念に資料を準備します。ギリシア語原文、文法書、辞書、注解書、英訳邦訳を含む様々な翻訳聖書などを参照しながら、改訂すべき可能性がある箇所とその根拠を示した資料を用意します。参加者も、事前に送付されたその資料を読み込み、会議当日に向けて準備をします。そして当日になると、改訂の優先度が高いと考えられる箇所を中心に、それぞれが意見を出し合いながら議論が進められます。

作業部会で大切にされていることはいくつかありますが、その中でも私が特にやりがいと喜びを感じることがあります。それは、「日本語としての相応しさ」に対する慎重さとこだわりです。新日本聖書刊行会の「翻訳の理念」(<https://www.seisho.or.jp/aboutus/philosophy-of-translation/>)に「その時代の日本語に相応しい訳出を目指す」というものがありますが、改訂版が出版される数十年後を見越しつつ、「誤解を与える日本語になっていないか」を絶えず意識しながら改訂の検討が進められています。

一例として、ペテロの手紙第一5章7節の μέλει (melei) という語についての議論を紹介します(編集委員長の許可をいただいて掲載しています)。この動詞は新約聖書で10回登場しており、『聖書 新改訳 2017』における訳は以下のとおりです。

[否定辞を伴って]「遠慮しない」(マタイ 22:16; マルコ 12:14); [否定辞を伴って]「かまわない」(マルコ 4:38); [否定辞を伴って]「何とも思わない」(ルカ 10:40); [否定辞を伴って]「心にかけない」(ヨハネ 10:13); 「心にかける」(ヨハネ 12:6); [否定辞を伴って]「気にしない」(使徒 18:17); 「気にする」(Iコリント 7:21); 「気にかける」(Iコリント 9:9); 「心配する」(Iペテロ 5:7)

会議では、それぞれの文脈、辞書や注解書などが参照され、この動詞には「心を配る/気にかける」という意味があることが確認されました。そのうえで、ペテロの手紙第一5章7節の訳文「神があなたがたのことを心配してくださるからです」(下線は筆者)について議論しました。発表者から、現代日本語における「心配する」という語は、「心を配る/気にかける」というよりも、「不安になる」という意味で用いられることが多いのではないかという懸念が示されました。それに対して、「『神が不安がる』という意味で受け取ったことはなかった」という意見や、「キリスト教的な神観を持っていない人がこの訳を読んだとき、どういう神をイメージするだろうか」という意見などが出され、さまざまな視点からの話し合いがなされました。国立国語研究所による現代日本語のコーパスや、通時的に語釈を示しているいくつかの国語辞典などを参照したうえで、発表者の懸念を皆で共有しました。特に、若い世代では「心配する」という語が「不安になる」の意味で理解されやすい傾向にあることが確認されました。そのような現代日本語の使い方をふまえると、現行の訳は読者に対して、「神が不安がる」というような誤解を与えてしまうかもしれません。そこで、会議では「神があなたがたのことを心にかけてくださるからです」という改訂案が出され、その案について様々な角度から検証が行われました。この改訂案は暫定的なものであり、訳文検討作業部会から翻訳編集委員会に引き継がれ、さらなる検討が加えられる予定です。

『聖書 新改訳 2017』が大きく改訂されるのは数十年後のことと聞いています。数十年後を見すえながらの作業であるため、当然「分からない」ことが多くあります。それでも、改訂された『聖書 新改訳』を手に取るその時代の方々を想像しながら、改訂作業が進められています。

訳文検討作業に参加させていただき、『聖書 新改訳』が「その時代の日本語に相応しい訳出を目指す」翻訳聖書であることを改めて感じました。「日

本語としての相応しき」に対する慎重さとこだわりは、『聖書 新改訳』をとおして聖書の神を忠実に伝えようとする宣教の思いの発露のように感じられ、私個人としてもやりがいと喜びを感じる要因になっています。

ἀμαράντινον τῆς δόξης στέφανον. 5 ὁμοίως<sup>†</sup>, νεώτεροι, ὑποτάγητε πρεσβυτέροις· πάντες δὲ ἁλλήλοις τὴν ταπεινοφροσύνην ἐγκομβώσασθε, ὅτι ὁ θεὸς ὑπερηφάνους ἀντιτάσσεται, ταπεινοὺς δὲ δίδωσιν χάριν.  
6 Ταπεινώθητε οὖν ὑπὸ τὴν κραταιὰν χεῖρα τοῦ θεοῦ, ἵνα ὑμᾶς ὑψώσῃ ἐν καιρῷ<sup>†</sup>, 7 πᾶσαν τὴν μέριμναν ὑμῶν ἐπιρίψαντες ἐπ’ αὐτόν, ὅτι αὐτῷ μέλει περὶ ὑμῶν.  
8 νήψατε, γρηγορήσατε. <sup>†</sup> ὁ ἀντίδικος ὑμῶν <sup>†</sup> διάβολος ὡς λέων ἀσπόμενος περιπατεῖ ἵππων ἵνα καταπιεῖν<sup>†</sup>.

ギリシア語聖書 ペテロの手紙第一 5章7節  
Novum Testamentum Graece 28.revidierte Auflage  
©2012 Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart

## 『聖書 新改訳』を用いていただくための制度

研究員 公文 光・山中 直義

日頃のお祈りとご支援に、心から感謝を申し上げます。今回は、『聖書 新改訳 2017』および『聖書 新改訳(第3版)』(以下、併せて『聖書 新改訳』)を多くの方々に用いていただくための制度について紹介させていただきます。

新日本聖書刊行会は、『聖書 新改訳』ができる限り多くの方々に幅広く用いられることを願い、利用について取り決めを設けています。その中で「利用許諾申請なしでの利用」及び「利用規定」について説明しています。詳細は、当刊行会ホームページの「新改訳本文の利用について」をご覧ください(<https://www.seisho.or.jp/s2017/quotation-policy/>)。

この「利用規定」には、「聖書本文を誤りなくそのまま利用すること」や「出所を明示すること」などが定められています。しかしこれに対して、「新日本聖書刊行会はいかなる規定をも定めることなく、すべての利用に関して申請不要とすべきではないか」というご意見をいただくことがあります。たしかに、そのようにすれば利用者が完全に自由に利用できるようになるでしょう。しかし、それは同時に、テキストの管理について誰も責任を取らないということになります。そうすると、様々な問題が生じます。たとえば、『聖書 新改訳』の文言を一部書き換えて利用するケースが考えられます。悪意はなかったとしても、そのような利用が聖書原典の意味を変えることになるかもしれません。そして、インターネットやSNSを通じてそのようなテキストが拡散されることによって、聖書の権威が貶められることになりかねません。また、『聖書 新改訳』を利用した書物や商品が販売されつつも(そのこと自体に

問題はありますが)、適切な利用料が支払われない、というケースが考えられます。その場合、新日本聖書刊行会はさらなる改訂のために必要な訳業と研究を継続することが難しくなり、聖書翻訳事業の存続に影響が及ぶことも考えられます。

聖書に限らず、著作物を巡るそのような問題が起こらないようにするために、「著作権」というものが存在します。利用する側も利用を許諾する側も、著作権に基づく適切な規定を守ることによって望ましい結果を得ることができます。新日本聖書刊行会は、できる限り多くの方々に幅広く『聖書 新改訳』をご利用いただけるよう、祈りつつ、様々な方々からご意見を伺いながら制度を設けました。その結果、通常の著作物を利用する場合よりもはるかに自由で緩やかな利用が可能になっています。この制度は、「利用規定」を必要最小限度に抑え、必要な場合にのみ利用許諾申請をお願いするような仕組みになっています。そして、私たちは今もなお、この仕組みの改善に取り組んでいます。

新日本聖書刊行会は、できる限り多くの方々が『聖書 新改訳』を利用してくださることを願っています。同時に、聖書の権威がふさわしく守られること、当刊行会が皆様からのお祈りとご支援に支えられて聖書翻訳という使命を適切に果たし続けていくことを願っています。

『聖書 新改訳』をご愛読くださっている皆様に感謝を申し上げるとともに、益々のご理解とご支援を賜り、『聖書 新改訳』をお使いくださいますようお願い申し上げます。

# ご挨拶

教会代表委員長 赤坂 泉

新日本聖書刊行会の働きを覚えてくださり、ありがとうございます。神のことばに親しみ、神のことばを分かち合い、宣べ伝える働きを担っておられる皆様に、恵みが豊かに注がれますように。

新日本聖書刊行会では、聖書本文を広く用いていただけるように、新改訳聖書の本文を利用許諾申請なしで利用していただける制度を設けています。礼拝や集会、インターネット上での利用など、規定の範囲であれば自由に積極的に利用していただきたいと思います。利用に伴って何らかの収入がある場合は申請が必要です。利用料が発生する場合は、一般的な著作権利用料率を勘案した料率表に従って利用料をお知らせしています。どの翻訳聖書を用いても、本質的には事情は同様です。詳細は3頁の記事をご覧ください。

いずれにしても、神のことばが広く行き渡るために、諸教会、皆様と共に労して参りたいと願っています。皆様が個人的に、また教会で利用して下さることに加えて、周りの方々に新改訳聖書をお薦めください。図書館で新改訳聖書が読めるように働き掛けて下さることもできます。どうぞよろしく願います。

新日本聖書刊行会は、日本語の変化や聖書学の発展に応じて最善の翻訳聖書を届け続ける責務を自覚しています。『聖書 新改訳 2017』の訳業の改善を続け、関連のデータベースを整備しています。また、次世代の翻訳者たちを励ますことを願って、訳文検討の学びなどを続けています。2頁の記事でお読みいただける通りです。こうした働きを覚えて、お祈りください。また、献金をもってお支えください。オンラインでもお受けできるようになりました(右欄 URL 参照)。

各種お問い合わせやご意見、ご要望をお届けいただけるように、ホームページに「お問い合わせフォーム」を用意しております。ご利用ください。  
<https://www.seisho.or.jp/contacts/inquiry/>

なお、新改訳著作権管理事務は、いのちのこと

ば社に業務委託していましたが、2024年4月1日から、新日本聖書刊行会へ移管いたしました。より速やかに応答させていただけるものと考えています。ホームページの「利用許諾申請フォーム」(<https://www.seisho.or.jp/application/>)をご利用ください。

## 新日本聖書刊行会

ホームページ：新日本聖書刊行会のホームページでは、様々な情報を紹介しています。『聖書 新改訳 2017』の文言検索なども出来ます。

是非、ご覧ください。

<https://www.seisho.or.jp/>



献金について：新日本聖書刊行会は、聖書発行の印税と共に、皆様からの献金によってその働きが支えられています。継続した改訂作業と研究活動のために、下記口座から献金をお願いいたします。

### 郵便局

名称：一般社団法人新日本聖書刊行会  
記号：00190-5-678487

### ゆうちょ銀行

店番：〇一八 (ゼロイチハチ)  
種類：普通預金  
番号：5918204  
名称：シヤ) シンニホンセイショカンコウカイ

### みずほ銀行

支店：川越支店 (273)  
種類：普通預金  
番号：1123503  
名称：シヤ) シンニホンセイショカンコウカイ  
(一般社団法人新日本聖書刊行会)

### オンラインでの献金

<https://www.seisho.or.jp/donation/>

